

対象：市町村教育委員会関係者
及び中学校英語科先生向け

GTEC[®]から TOEFL Primary[®]/ TOEFL Junior[®]へ ー本校の英語アセスメントの視点ー

京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任
ETS公認TOEFL Primary[®] / TOEFL Junior[®]トレーナー
メタメトリックス公認レクサイルエデュケーター
一般社団法人国際教育英語試験協会アドバイザー
今西 竜也

目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.1
2. 現在の英語教育を取り向く状況・・・・・・・・・・	p.1
3. 本校の目指す英語の力・・・・・・・・・・・・・・・・	p.2
4. GTEC [®] からTOEFL [®] へ①～世界とつながる～	p.2
5. GTEC [®] からTOEFL [®] へ②～オーセンティックであること～	p.3
6. GTEC [®] からTOEFL [®] へ③～時間と価格と4技能～	p.4
7. GTEC [®] からTOEFL [®] へ④～ICTとLEXILEによる個別最適化～	p.5
8. 変えてみて見えてきたこと・・・・・・・・・・	p.6
9. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.7

1. はじめに

本校では2018年に年1回実施してきたGTEC®を取りやめ、TOEFL Primary®/TOEFL Junior®を導入した。ベネッセの提供する英語のテストは大変良くできたもので、本校の子どもの英語の力を測る上で充実していた。しかしながら、英語教育を取り巻く

状況の変化や急速なグローバル化の中で、本校の目指す英語教育の姿から検討を重ねた結果、ETSのTOEFL Primary®/TOEFL Junior®が本校の英語学習者や英語指導において有効であると判断した。本校における英語アセスメントの視点を記す。

2. 現在の英語教育を取り向く状況

2020年に小学校の指導要領、2021年に中学校の指導要領が改訂され、初めて小学校の検定教科書ができた。さらに2024年には小学校の教科書が、2025年には中学校の教科書が改訂される。学習指導要領改訂で起きた大きな変化は、学習者の英語学習を始める時期である。新型コロナの影響でばたきながらのスタートではあったが、5・6年生の英語の教科化により、今までよりもより学術的かつ体系的な英語の学習を目指している。特に中学校で学習していた言語材料(文法)を先取りして学習し、語彙も600～700語と、大変高いレベルを求められている。これに伴って中学校での英語の学習も高度化しており、現在完了進行形や仮定法などが、高校から中学校の学習内容へと移行された。

さらに、英語の指導に置いて育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」が示され、4技能を統合し、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題を扱える力を目指している。小学校の教科書はもちろん、中学校の教科書

も文法を学ぶためだけの単元設定ではなく、場面を設定して使用場面や目的を伴う学習になるよう配慮されている点からも、単純な英語の知識を増やすのではなく、英語を使って何をするのかという点に視点が向いている。

また、大学入試改革も英語の学習に大きな変化をもたらした。大学入学共通テスト英語のリーディングでは、リード文、問題文、回答の選択肢がすべて英語で書かれていることや、英文で書かれた資料や図表を読み取るなど、英語の理解だけではなく思考や応用する力を必要とする問題となっている。リスニングにおいても聞きながら図表や資料を見て答える問題が多いうえに、リーディング80分に対して、60分と大変長く、またそれぞれ100点満点というリスニングを重視する姿勢が見られる。つまりまずは英語に慣れていることが前提で、要領よく理解して考えて答えを導き出すことが求められているのである。

そして英語学習における「個別最適化」が求められだしている。英語は特に学習者のそれまでの学習経験や能力に差が大きい教科である。一律に同じ教科書を使って同じ学び方をすることは、英語を得意とする学習者に

英語が苦手な学習者にとっても効率的でない恐れがある。学習者のそれぞれの学習経験や能力に合わせて、個別に学習方法や目標、

教材などを操作し、個々の効率的な学びをサポートする使命が指導者に課せられているのである。

3. 本校の目指す英語の力

私たちは、英語が好きな子は求めている。教室で「英語が好きな人」と問えば何人も手が挙がるが、彼らは決して英語が好きなわけではない。英語の映画を見たり、英語の音楽を聴いたり、英語の本を読んだり、英語で外国の人と話をしたりすることなど、「英語を使って何かをするのが好きな人」なのである。英語そのものができるようになって、中身のない人間では伝えることが何もない。だから英語のテストで高得点を目指すのではなく、自分が英語を使ってどんなことがしたいのか

を考えてほしいのである。

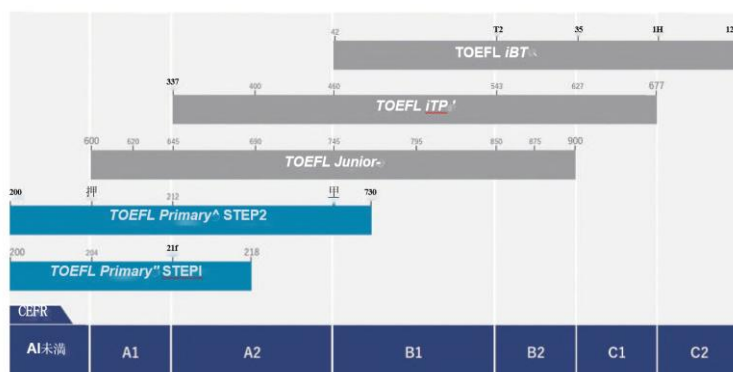
英語がうまくなるように努力するよりも、英語でしたいことが見つければ、それが素晴らしいモチベーションになるのである。下手な英語であろうと、伝えたいこと、聞きたいことがあれば、次第に上手になるし、失敗を重ねての成功体験から自信が生まれていくのだ。それは機能として正しいだけの英語ではなく、意味のある対話を意味している。つまり生きた英語こそが私たちが学習者に提供したい学びなのである。

4. GTEC®からTOEFL®へ①～世界とつながる～

まずTOEFL®を選んだ大きな要素は、世界とつながることである。小学校から社会人に至るまで一貫した基準で評価が可能であるTOEFLファミリーにはTOEFL Primary® Step 1 → TOEFL Primary® Step 2 → TOEFL Junior® → TOEFL iBT®と接続性を持ったラインナップが用意されている。本校で現在

実施しているのはTOEFL Primary®またはTOEFL Junior®であるが、その先のTOEFL Junior®やTOEFL iBT®へと進めば、自分の英語学習の足跡を見ることができる。実のところ、GTEC®でもJuniorやCoreなどレベルの違いいくつかのテストが用意されていて継続的にスコアの変遷を見ることができる。しかし

ながらTOEFLのスコアは世界基準であり、世界中の英語学習者と自分を比較することができるのである。国際化の社会において日本国内でできるできないを判断するのはではなく、世界基準で自分を知ることが学習者のモチベーションにつながると考えた。また、上位テストにおいても



スコアが継続されるため、将来海外の大学などを視野に入れている児童生徒は早くから自

分の目標を知り、ゴールに向けて着実に自分を高めていくことができるのである。

5. GTEC®からTOEFL®へ②～オーセンティックであること～

それぞれのテストにおいて出題される問題の場面も重視した。世界とつながる英語を学習していることから、私たちとしては海外の様子を知ることができるという点も大いに考慮した。GTEC®の公式問題集を見てみると、海外の写真やポスターなども使われて出題されているが、日本のインターナショナルス

クールの学園際に行くという設定や、インターナショナルスクールに通っているという設定など、あまり現実味のない状況であったり、使用されているイラストが海外ではなく日本の学校が強くイメージされるものであったりと、一貫して海外の様子を知るものではない。



また設問が日本語でされているものもあり、英語で考えて判断し答えるのではなく、状況を日本語で理解して英語で答えを出すという日本語と英語が入り混じった思考が出てしまうことを懸念した。また、GTEC®は日本の英語教育を念頭に置いて問題が作成されているため、日本の受験者が問題になじみやすいのはメリットであるだろうが、日本人の年齢や学年に合わせてテストが設定されている点も含めて、本校の世界を意識した英語という視点ではむしろデメリットであった。例えば小学生向けのTOEFL Junior®では出題範囲について「小学〇年～△年の範囲の語彙」と記されている。学校の学年に合わせて行うテストであれば、学校内の単元テストや定期テストでその役割は十分である。

対してTOEFL Primary®/TOEFL Junior®は、世界共通のテストであることから、場面の設定やイラスト等がすべて海外の状況を示しているほか、問題文や回答の選択肢などもすべて一貫して英語しか使われていない。またTOEFL®は、それぞれのテストの受験者の情緒発達と認知能力に基づいて開発されている。場面においては、家の近くの公園や学校での先生の指示など、それぞれの受験者と同じくらいの英語話者が経験する状況が多く設定されている。テストそのものや資料のフォーマットも世界基準で作られており、それらも含めて英語を学ぶ児童生徒が、英語を通した世界とのつながりを感じるには大いに効果があるだろう。

付け加えて、各テストで使用される語彙についても疑問を持った。GTEC®では日本の外国語学習を意識して作られているため、知らない語に出会う機会が少ない。将来、英語学習者が実際に英語を使って読んだり聞いたりする場面では、知らない語に出会うことは日常茶飯事である。しかしながら知らないからと

Parent's Day Schedule

9:00 AM	Arrive at the school with your kids
10:00 AM	Listen to the principal speak
11:00 AM	Lunchtime with all students
12:00 PM	Watch a school photo slideshow
1:00 PM	Go to the classroom
1:30 PM	Watch the teacher give a lesson
2:30 PM	Go home early with your children!





Christmas Concert Program

Northside Elementary School



Come to the auditorium on Saturday December 23rd.
Your kids will sing! It should be a lot of fun!
There will be Christmas cookies and juice.

Grade Level	Songs
Part 1 1st-2nd Grades	- Santa Claus Is Coming to Town - Jingle Bells - Rudolph the Red-Nosed Reindeer
Part 2 3rd-4th Grades	- Silent Night - Snoopy's Christmas - Here Comes Santa Claus
Part 3 5th-6th Grades	- White Christmas - Jingle Bell Rock - Frosty the Snowman

言って毎度辞書を引くわけではなく、前後の文脈や語の特徴から何となく意味を推測しながら読んだり聞いたりするのである。その点においてTOEFL®では日常生活が場面として多く取り上げられているため、習ったか習っていないかという視点で使われている語が選ばれているのではなく、日常生活で使われている語が問題に登場するのである。このような点についても、本校の取り組みたい英語指導と合致したのである。

6. GTEC®からTOEFL®へ③～時間と価格と4技能～

実施する時間についてもたくさん検討がなされた。GTEC®では小学生向けのJuniorで90分程度の試験時間が必要である。学校時程の中で90分の試験時間を設定すると、配布や諸注意等を含めると3時間分の授業コマを割かないといけない。対してTOEFL Primary®であれば60分程度であるので授業を2コマ用意すれば受験することができる。小学校段階において授業3つ分も集中して受験させることはなかなか難しいと考えた。

TOEFL Junior®では3技能90分となるが、TOEFL Junior®を受験するのは本校では中学生であるので、集中して受験することができると思われた。また、60分という短い試験時間であることで、欠席した児童が翌日休み時間や放課後を使って受験することができる。全員が受験することでより正確なデータを得たり、返金の手続きが楽になったりとするのも魅力であった。

受験料に関しては、小学生向けのGTEC®では4000～5000円程度であり、TOEFL Primary®では学校実施であれば3000円、TOEFL Junior®でも3500円で受験できる。受験に意義があるのなら説明の責任を果たして受験料を保護者から徴収するのであるが、本校ではテストの変更によって受験料が安くなるので、保護者への説明がしやすかった。テストで測定する技能について、リスニングとリーディングの2技能になることは、本校で検討する際に何度か議題となった。しかしながら、そもそも本校では言語習得のメカニズムを考慮し4技能を統合して指導すること

を基本としている。それぞれの技能をバラバラに指導して試験で点数を取る授業では無理だが、本校では4技能を統合し、同じペースで包括的にすべての技能が伸びていくように取り組んでいるため、2技能の結果を見れば、おおよその児童生徒の力を知ることができる。また学校での教科書を基本として学習している内容は、単元テストや定期テストで習得の段階を把握できる。私たちが知りたいこと、そして児童生徒に感じてほしいことは、自分の力で何ができるのか、学校や日本の中ではなく、世界でどれだけ通用するかなのである。

7. GTEC®からTOEFL®へ④～ICTとLEXILEによる個別最適化～

GIGAスクール構想のもと、本校でもインターネットが整備され、児童生徒全員に1台のタブレットPCが配布された。しかしながらこの端末をどのように授業に生かしていくかは大きな課題であった。授業支援アプリ等を導入し授業の向上を図ったが、それ以上に利用できる手はないかを考えていたところに、案に挙がったのがオンライン図書のサブスクリプションである。本校では5・6年生にScholastic社の「BookFlix」、7～9年生に「Literacy Library Pro」というオンライン図書を導入した。TOEFL®の結果からLEXILE指数が得られるが、この数値は、書籍と学習者の読解能力を数字で見取れる。学年内・教室内で同じ読解力の児童生徒ばかりだけではないのは常であり、上下の差が激しい集団において、それぞれが何を読むのべきなのかを把握することができる。授業で読書の時間を取り、それぞれが自分のレベルにあった本を



読むことができ、インターネットが使えるればデジタル本を読むことができる。保護者にも具体的どのくらいのレベルの本を読むことができるようになっていくのかも把握してもらいやすい。また紙の本であれば学級の人数分の同じ本が必要であったが、タブレットPCを使って同時に同じ本を読むことが可能になった。教科書だけではなく、それぞれの英語の力と興味に合わせて読みたい本を読むことで、個々の児童生徒のより良い学びをサポートすることができるようになった。

8. 変えてみて見えてきたこと

GTEC®からTOEFL®の全員受験に変えた際には保護者にプリントで知らせたが、合わせて生徒にも説明したからか、問い合わせ等は一切なかった。また2022年からは、それまで実施していた英検の希望者受験を取りやめ、TOEFL Primary® / TOEFL Junior®の希望者受験を開始した際にも問い合わせはなく、予想以上の児童生徒が受験を希望し、小学1年生の児童も受験を希望するなど、大きな反響が得られた。その後、全員受験では学年ごとに受験するテストを決めていたが、上のレベルのテストを受けたい児童生徒は希望を聞いて受験できるようにした。こちらも大きな反響があり、多くの生徒が上のレベルを目指し受験している。これもまた個別最適化のひとつである。

洋書の読書の取り組みも好調であり、現在8年生と9年生(中学2・3年)では授業の初めに読書の時間を設け、それぞれが好きな本を自分英語の力に合わせて選んで読んでいる。教科書からは得られない英語の表現や、洋書ならではの色づかいや構図に興味を持って読書を進めている。読書を通して、英語を学ぶ意味がより深まったと考えられる。テストのためではなく、英語を使って本が読めるという実感が児童生徒にとって、英語をより意味のある学びに変えているのである。

授業改善にも大いに役立っている実感を持っている。TOEFL®の大きな特徴の一つが、テスト対策ができないことである。ここだけの話、以前たまたまライティングの学習をした直後にGTEC®を受験させた際、ライティングの校内平均点が、何学年も上の全国平均点を超えたことがある。それぞれ英語の得意な子も苦手な子もいた中で、本当にそれぞれの英語の力が見えているのか不安となった。テスト対策ができないということは、普段から世界基準の英語の力を身に付けさせる授業をし続ける必要があるということである。英語は4技能と言われるが、それらが統合されていることはもちろんであるが、4技能としてとらえている以外にも、それらを効果的に使いこなす英語の力が必要なのである。授業内で常に英語を使って目的を達成する学習のスタイルにすることで、児童生徒の本当の英語の力が把握できるし、指導者としても自身の授業を顧みて互いにアドバイスし合って、よりよい英語授業を行うことができると感じている。



9. 最後に

英語を勉強して、「できる」ようになることはそれほど簡単なことではない。英語の文法を勉強し、単語を暗記して、試験でよい点を取ることは面白くもなければ、意味を見失ってしまうことだってあるだろう。しかしそれは私たちの考える英語教育ではない。英語を通して何かを知ったり、自分を伝えたりすることで、その有効性を知り、さらにもっとできるようになりたいと思える指導を目指

している。最終的には英語を使って人とつながり、知識と知性を深めていけるように強く願っている。現代の日本には多くの英語のテストが存在するが、本校の英語教育の在り方を考えた時、最も児童生徒と教員たちに合致するものがTOEFL®であった。志を同じくする英語の学習者と指導者が自身にあったよりよい英語のテストに出会うことを祈っている。

著者紹介

今西 竜也

所 属: 京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

学 歴: 京都教育大学大学院教育学研究科修了

在 籍: 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程、英語教育の研究

編集協力: 三省堂 クラウンジュニア

資 格: ETS公認TOEFL Primary® /TOEFL Junior® トレーナー

メタメトリックス公認レクサイルエデュケーター

